

おおま

No. 94
岬の光

平成29年8月1日発行

議会だより



平成29年7月6日

大間町役場新庁舎 建設工事 安全祈願祭

議長による玉串奉奠

6月定例議会 主な内容

○平成29年 第2回定例会、人権擁護・農業委員の任命 P 2～3

○3議員が一般質問 P 4～6

○報告(広報研修会・県下議員研修) P 7

○報告(役場庁舎建築・防災無線整備工事 工事請負契約) P 8～9

○視察報告・編集後記 P 10

第2回 6月定例会

平成29年第2回定例会を6月7日開会し、6月13日閉会しました。

本会議に提案された報告3件、承認3件、議案8件、同意3件はすべて原案どおり承認、可決、同意されました。

平成29年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ2797万円を追加し、予算総額44億2428万円とした。

歳入の主なもの

○財政調整基金繰入金
2700万円の取崩し。

歳出の主なもの

○下水道事業特別会計
繰入金252万円。
○外国語指導員給料
240万円。

債務負担行為の変更

○役場庁舎建設事業の
限度額を15億6000万円から14億8986万円へ変更。

国民健康保険 特別会計

歳入歳出それぞれ1万円を追加し、予算総額10億8257万円とした。

介護保険 特別会計

○歳出の組替補正であり臨時職員賃金21万円を追加し、予備費で21万円を減額。

下水道事業 特別会計

歳入歳出それぞれ252万円を追加し、予算総額2億4842万円とした。

水道事業会計

○支出の営業費用で53万円、収益的支出の総額を1億6042万円とした。

平成28年度 一般会計補正

地方交付税、地方譲与税の確定に伴い財源調整を図り、歳入歳出それぞれ1億2328万円を追加し、予算総額43億3328万円とする。

歳入

○地方交付税1億209万円。
○黒毛和種牛売払収入
330万円。

歳出

○財政調整基金積立金
1億3000万円。
○下広組合負担金合計
で444万円の減額。
○下水道事業特別会計
繰入金321万円の減額。
○予備費で504万円。

工事請負契約の締結

○目的
防災行政用無線整備工事
○方法
指名競争入札
○金額
3億6720万円
○相手方
弘前市大字徳田町30番地1
張山電気株式会社
代表取締役 張山 久次

財産の取得 2件

①○目的
繁殖育成センター家畜
運搬用トラック
○方法
随意契約
○金額
1306万9945円
○相手方
むつ市大曲3丁目41
いすゞ自動車東北(株)
青森支社むつ営業所
所長 山下 聡

②○目的
繁殖育成センター牧野
作業用トラック
○方法
指名競争入札
○金額
1074万6千円
○相手方
むつ市横迎町1丁目17-7
(株)みちのくクボタむつ店
店長 竹内 邦雄

第1回 臨時会

7月5日開会、3議案を可決閉会しました。

人権擁護委員

投票数 8 票

賛成 8 反対 0



熊谷真理子 氏

大間町大字大間字

狼丁 14 番地 9

昭和 31 年 11 月 22 日生

※在任中の委員

目時 浩美 氏

古川 一男 氏

佐々木真萌 氏



農業委員会委員の任命

※認定農業者等が委員の過半数を占めることを要しない場合委員の少なくとも 4 分の 1 を認定農業者等及び準ずる者とする

投票数 8 票

賛成 7 反対 1



紀國昭弘 氏

大間町大字奥戸字

小奥戸 2 番地 33

昭和 20 年 1 月 28 日生

投票数 8 票

賛成 7 反対 1



田中國雄 氏

大間町大字奥戸字

新釜 11 番地 1

昭和 24 年 4 月 1 日生

投票数 8 票

賛成 8 反対 0



佐々木陽治郎 氏

大間町大字奥戸字

奥戸村 73 番地

昭和 56 年 12 月 21 日生

投票数 8 票

賛成 8 反対 0



新田準司 氏

大間町大字大間字

蛇浦道 9 番地

昭和 33 年 5 月 3 日生

投票数 8 票

賛成 8 反対 0



岩泉盛利 氏

大間町大字奥戸字

奥戸村 190 番地

昭和 19 年 7 月 11 日生

投票数 8 票

賛成 8 反対 0



野崎和歌 氏

大間町大字奥戸字

向町 80 番地 2

昭和 19 年 7 月 7 日生

投票数 8 票

賛成 8 反対 0



大久保美代子 氏

大間町大字奥戸字

向町 85 番地 5

昭和 18 年 9 月 1 日生

投票数 8 票

賛成 8 反対 0



山本隆 氏

大間町大字奥戸字

向町 78 番地 15

昭和 31 年 3 月 23 日生

一般質問



竹内 勝雄 議員

学校給食について

子供たちの健康面を考えた時、偏った栄養の摂取、朝食を食べないなど、食生活の乱れが原因と思われる肥満児が増加、食に対する問題が深刻化している。父兄から学校で給食を出せないかとよく聞かれます。近隣のむつ市大畑でも学校給食がされていると聞きますが、大間町の学校給食の導入について町長はどのようなお考えをお

持ちなのか、お聞きしたい。

町長答弁

学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達や、食育の推進の観点から展開されていると認識しています。町では、牛乳給食のみであり、現在、完全給食の計画はございません。飽食の時代と言われる中で子供たちの肥満、朝食を食べないなどの

状況がかなり多くなってきたことから、町では、住民福祉課を中心に児童生徒の健康増進のため、学校と協力しながら弁当づくり等の講習会など、食育についての活動を展開しています。

保護者が子どもの健康状態に応じて食事をつくるのが理想なのですが、現実ではそういう状況にないことから子供たちの健康を維持するためにも、ある意味での学校給食の必要性を感じておりますので、今後、教育委員会を中心に調査研究を行っていききたいと思っております。

再質問

文科省の全国学校給食の実施調査では、平成27年5月現在で、小中学校が約99%、中学校で約88%、小中合わせて約96%の子供たちが給食を受けていると発表している。

小中学校だけでなく高校も含めた考え方や、北通りの三ヶ町村で学校給食を考えられないか。

町長答弁

学校給食が全国の90%以上で実施されていることは認識しています。

町として、どういう形態で学校給食を進めていくかというのも、今後の調査研究の大きな目的でもある。

高校、風間浦村、佐井村については個々の自治体の考え方もありますので、今、三ヶ町村で実施しますという答弁は出来ませんが、今後の調査の中でそれらも含め、可能性を探っていかれると思っております。

再質問

可能性を考えるのはいいが、考えているうちに、子供たちの人数も少なくなってきました。

人数が少なくなれば可能性も少なくなるのでは。その辺についてはどのような考えをお持ちですか。

町長答弁

学校給食を実施するとして、給食センター方式がいいのか、業者に委託する方法がいいのか、又、各学校で提供するなど方法を検討していかなければならない。

センター方式ですと、ご指摘のように子供の数が減ると一食当たりの単価が当然高くなる、それらをどうクリアするか。広域的な実施方法だと配達するという状況も出てくる。総体的に給食を実施するならば、どういう方法がよい方法なのかを考えて行かなければならないし、昨今のアレルギー性の問題が私の認識では非常に大きいものがある。万が一にもアレルギー性の問

題で不幸なことが起きないよう整理していかねければならない。だが、その問題だけで給食の成否を議論するのではなく、子供たちにとってどの方法が良いのか、調査研究をさせて頂きたい。

再質問

調査研究と言います時間が無い、町長の任期中にやってくれるのか。

町長答弁

財政的な部分が大きな課題だと認識している。建物を建てればそれで終わりではない。給食を提供するには様々な維持運営費が発生してくる。財政的な部分も含め検討したい。

再質問

食に関する正しい知識と、食習慣を身に付けることができるよう、町長も積極的に取り組んでほしい。

一般質問



野崎 信行 議員

私は1から15までやりたいと思いますので、町長さんの前進ある答弁、町発展のため、よろしくお願ひします。

整備等併せて計画してまいりたいと考えております。

問四 弁天島漁船つりかん設置について。

弁天島のつりかんが破損し、利用できない状況にある。漁業者のために早急に直すべきだと思います。

町長答弁 予算的にはかなり厳しい状況にあるというふうに向っております。

問五 向町荒谷から二ツ石までの道路舗装について、その昔、奥戸から風間浦に向かう道路、昔頻繁に利用しました。非常に破損が目立つ。道路整備をすべきであると思います。

町長答弁 坂道部分、280mの補修工事を7月末の工期で発注しております。

問六 下手浜海岸の斜路整備について、下手一番坂の下の斜路が壊れている。管理者の県

土木事務所に整備依頼すべきと思います。

町長答弁 現地調査の上、協議してまいりたいと思います。

問七 下手長後商店の後方の側溝整備について、大雨になると洪水等、住民が大変な状況になる。100mの区間、大型側溝を整備すべきだと思います。

町長答弁 湿地帯からの排水を調査研修してまいります。

問八 青森県から観光自転車5台が送られる。活用のため大間崎にプレハブの自転車置き場を設置すべきだと思います。

町長答弁 大間崎自転車置き場の設置の予定は現在ございません。

問九 道の駅誘致について、佐井村に道の駅ができる。大間はできないのか。

とで、ご理解をいただければと思います。

問十 小型風力発電援助金活用について、老人ホームの入居の際、10万円の個人負担がある。半分は援助金を活用できないのか。

町長答弁 援助金制度そのものがございません。

問十一 農業振興地域計画の解除について、荒れ果てた農地は解除すべきと思います。

町長答弁 県と協議しているところであります。

問十二 小型風力発電ガイドラインの見直しについて、建設促進のため、建設距離区間を300mから150mに変更すべきである。深浦町では間隔が100mで建設ができるガイドラインになっている。

問十三 空き家バンクについて、大間町にどのくらいの空き家があるのかを、国の定住自立圏の援助活用を調査すべきである。

町長答弁 今後は移住促進も視野に入れ検討してまいります。

問十四 全国ドローン操作競技会開催について、近年、未来の雇用が考えられるドローンの操作競技会を函館市、大間町共催で開催すべきと思います。

町長答弁 現在は開催誘致の考えはございません。

問十五 新ビジネス応援事業費について、企業や新事業の開始に必要な資金のうち、3分の2を助成する青森市の取り組みが話題となっている。大間町でもやったらどうか。

町長答弁 今後の課題としてまいります。

問一 3番坂こぶ道路について、道幅が狭い、車が交差できるようにしたらどうか。

町長答弁 現時点での対応は順位的にはかなり低いものとなるというふう認識してございます。

問一 奥戸館ノ上菊

町長答弁 団地についても、今後の下水道

斜路整備について、下手一番坂の下の斜路が壊

討課題であるというこ

せん。

(記) 野崎



加藤 正喜 議員

あなたは隣に住みたいですか

〔風力発電機設置の条例化は？〕

我が町が風力発電機の適地として、今後250基以上の設置が噂されている。噂が現実となった場合、膨大な数の発電機から発生する騒音に、近郊の住民はどう対応すればよいのか。現に騒音で眠れず、体調を崩し悩んでいる住民が始められている。住民の暮らしを守るため、早急に風力発電機の設置に法的拘束力のある条例の制定を考えるべきと思うが。

町長答弁

現在の法規制では、

騒音の環境基準として、日中で55デシベル以下、夜間は45デシベル以下となっている。町では平成28年10月に事業者が自主的な遵守事項や、調整手順を明確にする事、民家より300メートル内の設置禁止のガイドラインを制定している。

だが、条例の制定については、国の法整備や県の条例制定が進めば町も条例化ができるが、現時点ではかなり厳しい。

再質問

国が進めている事業に地方自治体が異論を唱えるのは厳しいが、そこに住む住民に過重な思い、負担をさせている。景観にも問題がある。風力発電機の隣接地に新築、住みたいと思えますか。私は住みたくなさくない。二次的には土地の評価額が下がり税収も減ると思うが。

町長答弁

住民の騒音等の悩みに対して、相談に応ずることは可能ですが、結論を出すことはできない。風力発電機については、騒音とか景観の問題と、土地の有効利用に関しては非常に有意義な方法でもある。個々の契約が成立して事業を実施していくことに町が規制、制約することはできない。町村会顧問弁護士からの話では条例制定は難しいと伺っている。

再質問

今、風力発電がビジネス化している。業者が地主と契約し、出資者を募り商売をする。又、土地を確保して設置した上で売買をするとか、行政が、気が付かないところで動いている。地域住民の安心安全を守る観点から、踏み込んだ考え方ができないか。

町長答弁

私が今一番心配なこととは、例えば、20年で契約が切れます。その後、再度活用するのかわ、再度活用するのかわ、壊れた場合どうするのか、国のガイドラインでは事業者が責任を取ることになっているが、出資者が変わり使えなくなつたまま放置され、地権者が更地に戻すことにならないか。

再質問

先般、部署が違うがエネルギー庁の職員との話し合いで、国が整理、確認をしたうえで認可、許可をしてほしいし、今後、法整備をして法律を定めてほしいとお願いをした。現状では町がガイドラインを示すことが最善と認識している。

風力発電機の設置に全部反対しているわけではない。近くに民家がなければ大いに歓迎する。私は住民の安心、安全そして安眠を

町長答弁

有効な土地を持っている人は利用、活用したいと思っているし、他方では、騒音を心配する人がいる。双方の言い分は理解できる。ガイドラインは法律ではないので、指針というところからで厳守して戴くことを基本しながら、騒音の悩みのある方にはきちんと寄り添える体制をつくりたい。

尚且つ、業者には騒音の問題をきちんと考えて戴くよう注意を払って行きたい。

町村議会広報研修会

住民に読まれ
議会活動が伝わる
『議会だより』の
基本と編集

平成29年5月25日、
青森県労働福祉会館に
於いて、青森県町村議
会議長主催による、町
村議会広報研修会が行
われました。

広報編集委員6名、
議長、事務局員2名が
参加して広報作成のポ
イントや、注意事項な
どについて研修を受け
てきました。

町民の皆様が読みや
すい広報、親しまれる
広報づくりをめざして
毎年行われておりまし
たが、昨年は台風のた
め中止になり今年は2
年ぶりの開催になりま
した。

研修内容

議会広報サポーターの
芳野政明先生による

1. 発行目的にそって
企画・編集になっ
ているか
2. 読みやすさ、わか
りやすさへの編集
技術は

と題して講演がありま
した。

今回は大間議会だよ
りがクリニックにかけ
られ、指摘、注意ポイ
ントがあげられました。

今回の研修を生か
し、我々広報委員は町
民の皆様が親しまれる
議会広報づくりの為、
研修会等に積極的に参
加し、技術を磨き、皆
様にわかりやすい議会
広報づくりに取り組ん
でまいりますので、皆
様のご意見等をお寄せ
下さい。

(記)佐々木

県下町村議会議員研修会及び ㈱フローリテックジャパン視察

平成29年7月20日、
青森市リンクモア平安
閣市民ホールに、ジャ
ナリストの「須田 慎
一郎」氏を迎え、「こ
れからの政局・政治展
望」と題して講演をし
て頂いた。須田氏は新

聞・週刊誌等の執筆の
傍ら、「ビートたけし
のTVタックル」「そ
こまで言って委員会N
P」「あさラジ」他、
報道番組でお馴染みの
方です。

今、中央政界の動き
が連日のように報道さ
れ巷を揺るがしている
この時、ドンピシャの
演題で、興味をそそら
れると同時に、巧みな
話術で面白おかしく聞
くことができた。

次の日の21日、六ヶ
所村の㈱フローリテッ
クジャパンを見学して
きた。当社はアジア最
大規模の花き鉢物栽培
温室で、年間約400万
ポットの花きを生産し
ていると言う。幅88m
奥行231mの大温室で、
正社員11名、30数名の
パートが働いていた。

今動き出す

大間町役場庁舎建設工事の 安全祈願祭を挙行

平成29年7月6日午前10時30分より、大間町総合開発センターに於いて「大間町役場庁舎建設工事の安全祈願祭」が挙行されました。議会で承認された庁舎建設費(事業費)の最終決定金額。

事業費の内訳

庁舎本体・外構・電気(非常用電源設備含む)・機械(給排水、エレベーター、太陽光発電含む)設備。

車庫・倉庫、設計・施工監理業務委託、測量・地質調査費の合計

12億3千
5百万円

火災保険、維持管理費、公租公課等の諸経費15年間で

6千2百
50万円

15年間の金利等で

8千
2百万円

消費税等

1億1千
36万円

事業費合計金額

(15年間リース金額)

14億8千
9百86万円

建設工事スケジュール

(予定)

平成29年9月から基礎工事が始まり、外装工事は29年11月から。

平成30年1月から内装工事にかかります。

尚、車庫、倉庫、電気設備、給排水設備、空調設備工事も並行して行い、平成30年8月末には完成引き渡しになる予定。

大間町役場新庁舎 建設工事の安全祈願祭 議員団



※現在の庁舎は、昭和5年(1930年)6月、大奥村役場として新築、今年で87年が経過、老朽化と日本海中部地震により甚大な被害を受けたが、軽易な維持補修工事を施しながら使用している現状では、危険度は増すばかりだ。

又、原子力発電所の建設により注目度が増し、テレビ等で外観が映られる機会が多くなった。住民からは「みすばらしい」、「恥ずかしい」との声も聞こえるが、やっと解決しそうだ。

住民の願い

大間町防災行政用無線整備工事 工事請負契約を締結

個別受信機
(申請書による)

全戸に無償設置予定

平成29年6月28日、

指名業者6社による大間町防災行政用無線整備工事の競争入札が実施された。

※先に、町は指名入札業者として10社にお願いましたが、4社が辞退している。

落札業者

青森県弘前市大字

徳田町30番地1

張山電気(株)

代表取締役

張山 久次

落札額

(税抜)3億4千万円

落札率は、70・09%

尚、平成29年7月5

日の臨時会で、請負契約の締結が認められた。

「事業概要説明」

○平成30年9月供用開始予定

※新築役場庁舎内に放送機器を設置するため、庁舎の完成後の開始となる。

○屋外子局既設23基を更新、新設2基

※内山団地・学校通り町営住宅交差点付近に、2基新設

○個別受信機を「全戸に無償」で設置予定

※受信機を設置希望の方には申請書の提出をお願いする。

「種別」

一、防災行政用放送のみ受信

一、防災行政用放送及び、大間漁協、又は、奥戸漁協の放送受信



※写真はイメージです。

松島火力発電所視察報告

平成29年6月28日～30日



議員研修の一環として、電源開発(株)が九州長崎に営業運転をしている松島火力発電所を視察しました。

松島火力発電所は、昭和56年1月1号機営業運転開始、同年6月に2号機営業運転開始。平成23年に運転開始30年を達成している歴史ある火力発電所で、九州電力、中国電力、四国電力へ電気を卸す重要な役割を果たす発電所です。

1号機50万キロワット、2号機50万キロワットで合計100万キロワットの電気を製造しています。

この地域は古来から石炭の炭鉱で栄え、多くの人々で賑わった模様で、海に浮かぶ数多くの島々も石炭の島だと聞き驚きました。

異国情緒溢れる長崎にも近く、軍港の町佐世保市もそれぞれ車で一時間の距離にあります。

このような環境のなかで、地域の方々の大きな要望とご協力で完成したこの発電所は、オーストラリア等の海



外輸入炭を「石炭受け入れ量累計約8,600万トンのうち海外炭約8,000万トン」主として使用するほか、国内炭も併用する、わが国初の大規模輸入炭火力発電所として誕生し、活躍しています。

(記)宮野

編集後記

皆さんにこの広報が届く頃には、夏本番を迎えます。

夏と言えば祭りがあります。大間の祭りも青森県重要文化財に指定されました。今年、町民の皆さんで祭りを盛り上げて行かなければいけません。皆様の参加をお願いいたします。

今年の夏も暑くなりそうです。

こまめに水分を摂り熱中症に注意して暑い夏を乗り切りましょう。

(記)竹内勝雄

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 昭一

宮野 昭一